

棚田発！日本のこころのプロジェクト

代表者 山 本 綾 （農学部応用生物科学科 2 年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の伝統ある棚田の景観や棚田米の素晴らしさをより多くの香川大学生、香川県民に知ってもらうことを目的としています。小豆島中山地区の棚田は全国棚田百選に選ばれており、持続させるべき文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により耕作放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっています。SUIJI や昨年度の活動の中で、中山の人と関わり「私たちにも協力できることはないだろうか」と考えこのプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の棚田保全と地域振興を目指しています。

2. 実施期間（実施日）

平成 2 8 年 4 月 1 日から 平成 2 9 年 3 月 3 1 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、昨年度の活動を基に継続、発展させたものです。昨年度の活動としましては、田植えや稲刈りなどを中心とした耕作活動に加え、水路掃除や歌舞伎、虫送りなどの小豆島中山地区の事業にも参加しました。また、農学部で行われた収穫祭において棚田で収穫したもち米を使った赤飯と餅の配布を行いました。配布の際には、訪れていただいた方を対象にアンケート調査を行い、その結果をまとめて課題点などを見つけ、今年度の活動につなげるようにしました。

今年度の活動は昨年度に比べ、地域の方への広報活動が増えたことと歌舞伎の舞台に参加させていただいたことが大きな違いです。昨年度と同様に、小豆島に行き耕作活動を行いながら、三木町の地域の行事に 2 回参加させていただきました。その際、棚田で収穫したもち米を使ったおにぎりと私達が制作した小豆島中山地区



のパンフレットを配布し、私達の活動と小豆島中山地区の魅力を地域の人々に知ってもらうための広報活動を行いました。このとき、昨年度までの収穫祭で私達の活動と小豆島中山地区のことを知ってくださっている方が予想以上に多くいたため、広報活動の成果を少しですが実感できました。また、今年度は小豆島の中山地区の棚田だけでなく伝統文化である農村歌舞伎にも関わらせていただきました。昨年度は見学だけさせていただいたのですが、今年度は実際に2人が歌舞伎に出演し、中山地区の方と深く関わることができました。

ここで、夢プロジェクト申請の際に提示した今年度の事業計画と実際に行った活動について照らし合わせて報告させていただきます。提示した主な事業計画は、

- ・手伝わさせていただく棚田で米、もち米の栽培と中山地区の棚田維持について学ぶ。
- ・収穫祭で棚田米を使った食品の配布や小豆島以外の人々への認識調査を行い知名度向上を目指す。
- ・棚田オーナー制度へのボランティアと地域に伝わる伝統文化の活動に参加する。
- ・地域の方々の話を聞くなどして中山地区の地形や歴史、現状について学び、観光客に配布するためのパンフレットや観光マップを作る。
- ・SNSなどを利用して棚田の情報を発信し、知名度向上を目指す。

の5つの内容でしたが、「知名度向上を目指す」こと、「伝統文化の活動に参加すること」、「パンフレットや観光マップを作る」ことは昨年度と比べて積極的に行えたと感じています。三木町の行事に参加したことと収穫祭でアンケート調査を行ったことにより、知名度の向上は少しずつですが確認できました。また、大学のプログラムである、SUIJIの活動と並行して観光マップも作ることができました。これらの活動から、中山地区のことをより深く知ることができたと感じています。これらの情報を基に、これからは幅広い広報活動を行っていくことが大事だと感じました。

中山地区の棚田維持については、耕作活動を行いながら、田植えや稲刈りの指導をしてくださる地域の方から田植えの前にするべきことや棚田の維持の方法などを学ばせていただきました。

SNSなどでの情報発信は昨年度と変わらず行ってきましたが、知名度向上の大きな決め手とはならないように感じました。しかし、SNSを利用することで私達の活動を大勢の人に見てもらえるため、これまでより頻度を高めて利用していこうと考えています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことによる大きな影響として、学生と地域の方々のつながりが深くなったことが挙げられます。プロジェクトとしては、地域の方との関わりとして小豆島のお年寄りの昔からの知恵、大学の専門知識、大学の行動力と発想力を、相互に伝えあうことで持続可能な地域づくりを達成することを目的としていました。私たちは、耕作作業を行う際にほとんどすべての作業を一から教えてもらったのですが、棚田での耕作作業について知らないことばかりだったため、とても勉強になりました。

虫送りや歌舞伎などの伝統事業にも参加させていただき、その際に関わった観光客の方や中山地区の方たちと交流したことは、私達の活動だけでなく中山地区の活動の輪を広めることができたと感じています。

また、農学部で行われた収穫祭は広報活動としてとても重要な機会でした。今年度、私達は赤飯とついた餅、私達の活動と棚田についてのパンフレットの配布と同時にアンケート調査を行いました。主に農学部周辺地域の方々が多く訪れてくださりましたが、県外から来られている方もいらっしゃり、たくさんの方に私達の活動と小豆島中山地区の棚田について関心を持っていただけました。アンケート結果からはどれくらいの方が中山地区の棚田のことを知っているか、また私達棚田の会のことを知っているかが分かり、これからの活動のためにとっても参考になりました。



今年度の活動全体を通して感じたことは、私達の活動の幅が広がってきているということです。昨年度までは耕作活動に重点を置いて活動していましたが、今年度は三木町の行事に参加させてもらうなど、広報活動も幅広く行うことができました。さらに、中山地区の方とは歌舞伎に関わらせていただいたこともあり、より深くつながることができたと感じています。これらのことは、次年度の活動にも大きく影響していくことであるので、今年度は内容の濃い充実した活動を行えたと思っています。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトが私達に与えた影響として大きく2つ挙げられます。

一つ目は、地域とつながることで、地域未来社会について深く考えることができたということです。実際にその地域に足を運ぶことで、聞いた情報だけではわからなかった、その地域の課題や良いところを知ることができます。さらに、地域の方の話を聞き、共に話し合うことで地域未来社会や地域活性化について考えることができました。直接地域の方の話を聞くことで、その地域では何を求めているのか、自分達には何ができるのかななどを模索することができました。小豆島は観光地やロケ地として全国的にも注目されていますが、実際には人口減少、空き家問題、伝統文化の継承、棚田の維持・耕作放棄地問題などの地域の課題が多く存在することが分かりました。

これらの問題に対して私達学生には何ができるのかということ、地域の方と共に考え小さなことから実行してきました。そして、何ができるか考えたとき、学生にしかできないことがあると感じ、私達のしている活動や棚田米、中山地区の棚田のことを少しでも多くの人に知ってもらうためいろいろな形で広報活動を行いました。棚田の会として参加した行事や収穫祭での活動の説明などは、本プロジェクトに携わっていなければできない経験でした。これらは今後の学生生活や就職活動においても役立つ経験です。また、普段関わることの少ないような年代や役場などの職種の方々と交流を持つことができ、広い視野を持つことができたように思います。

二つ目は、農作業を地元の人から直接教わることで、棚田の伝統ある田植えや稲刈りの方法や大変な点などを学ぶことができました。大きな機械が入らない棚田では、手作業や小さな機械を使うことが多く、学校の授業などでは体験できない貴重な経験をさせていただきました。すべての農作業の工程の意味や土壌と肥料について考えることもでき、授業で得た知識の理解が深まりました。

広報活動や耕作活動など、私達の活動は学生生活においても大きな効果、影響をもたらしていると思います。



6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、耕作作業以外で小豆島の中山地区の地域の方との交流が少なかったことです。小豆島に活動をするために行く時は、耕作作業だけでなく地域の方との交流を深めることも大切だと思います。地域の方の考えや私達にこうしてほしいなどの意見を聞き、また私達の意見も交換できるよう交流会を増やしていきたいと考えています。

今後は新規学生メンバーを増やししながら、広報活動を今年度より幅広く行っていきたいと思います。毎年活動の幅は広がってきているので、地域との関係を絶やさないようにつなげていきたいと思います。

この活動を私達の自己満足で終わらせるのではなく、色々な方面へ影響を与えていきたいと思っています。今後も今まで以上にこの活動の意味を考えて行動していこうと思います。

最後になりましたが、私達の活動の指導をしていただいた小豆島役場の方々、中山地区自治会の皆さま、そして農学部田島先生、松村先生に感謝いたします。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

7. 実施メンバー

代表者	山本 綾	(農学部2年)		
副代表	中島 健登	(農学部2年)	請川 雄哉	(農学部3年)
構成員	田野 雅子	(農学部3年)	小池 裕之	(農学部2年)
	坂田 健太郎	(農学部3年)	橋本 朗	(農学部2年)
	貞松 千琴	(農学部3年)	由良 真穂	(農学部2年)
	江口 祐基	(農学部3年)	夏目 佳奈	(農学部2年)
	松村 大地	(農学部3年)	宮脇 愛子	(農学部2年)
	難波 剛	(農学部3年)	上田 あい	(農学部2年)
	花崎 友彦	(農学部3年)	吉田 光寿	(農学部3年)
	富田 真澄	(農学部2年)		